

中部電力 公募型エネルギー・環境教育プログラム開発

「学校の全ての樹木に名札をつけよう・学校に果樹園をつくろう」(理科クラブ活動)

三重大学教育学部附属小学校 教諭 服部 真一

1. 昨年度の取り組みについて

昨年度、三重大学教育学部附属小学校理科クラブでは、中部電力 公募型エネルギー・環境教育プログラム開発の援助を受け、学校の樹木に名札を付ける取り組みを行った。樹木の調査から名札の製作、取り付けまで行い、附属小学校内に生育している樹木の203本に名札をかけることができた。



そして、附属小学校の樹木の同定を依頼した三重大学教育学部准教授の平山大輔先生を講師として招き、「実のなる木」というテーマで、附属小学校に生えている樹木を実際に観察しながら特別授業を受けた。以下は、その時の様子である。



2、今年度の取り組みの計画

昨年度の取り組みを終えて、今年度はさらに2つの取り組みを計画した。1つは、全ての樹木に名札を取り付けることである。昨年度、附属小学校では、体育館の建て替え工事があり、体育館周辺の樹木に名札を取り付けることができなかった。また、附属小学校プール周りの樹木は昨年度取り組めなかったため、合計70本ほど樹木に名札が付いていない状態であった。そこで、今年度も継続して樹木に名札を取り付けることを活動計画に取り入れることとした。2つは、樹木を種子から育てたり、植樹したりして、校内に樹木を増やすことである。生活科、理科において野菜や花を育て観察しその成長過程を学習することはよく行われているが、樹木を種子から大きく育てる学習はあまり行われていない。そこで、理科クラブの活動として、給食で出されたビワの種を土に植えて発芽させ、ある程度の大きさになったら学校の空いている土地に植樹することを計画した。さらに、土地を耕して植樹する場所の整備をし、購入した果樹の苗木と、自分たちで発芽させたビワの苗木から、最終的に果樹園を作ることを目指し、活動を進めた。

3、実際の取り組み

(1) 学校の全ての樹木に名札をつけよう

昨年度同様、同じ手順で樹木の同定をし、樹木札を作成し取り付けた。以下の写真は、その時の様子である。写真は体育館工事で名札が取り付けられなかった樹木である。



この、理科クラブ員26人の活動で、合計74本の樹木に名札を取り付けることができた。そして、昨年度に取り付けたものと合わせると、277本の全ての樹木に名札がかけられたことになり、子どもたちの学習環境の整備にも役立たせることができた。

(2) 学校に果樹園をつくろう

果樹園をつくるために、次のように計画し、実践していった。

	日時	内容
①	6月	給食で出たビワの種子を採取。
②	6月17日	果樹園の測量、植樹の計画。
③	7月上旬 ～夏休み	ビワの種子を、ビニールポットの土に植え、理科クラブ員の子どもたちに持ち帰らせ、自宅で発芽させる。
④	10月	果樹園の除草作業と整備。
⑤	11月初旬	果樹（ミカン、カキ、スモモ、ベリー）の苗木の植樹。
⑥	11月中旬	果樹（ビワ）の苗木の植樹。

以下の写真は、その時の活動の様子である。

② 果樹園の測量と植樹の計画



③ ビワの種子を、ビニールポットの土に植え、理科クラブ員の子どもたちに持ち帰らせ、自宅で発芽させる。



④ 果樹園の除草作業と整備。



⑤ 果樹（ミカン、カキ、スモモ、ベリー）の苗木の植樹。



4. 実践の成果と課題

昨年度に引き続き、今年度も、植物を中心に理科クラブ活動を行ってきた。2年目ということもあり、理科クラブの活動を知り興味を持った子どもが在籍を希望したり、2年間理科クラブに在籍し活動を継続させたりした子どももいた。成果としては、次の6点が考えられる。

- (1) 理科クラブ員に限らず、樹木の名前を覚えている子どもが増えた。
- (2) 理科クラブ員の中に、名札が付いていない樹木を同定できる子どもが増えた。
- (3) 季節の移り変わりを、樹木を通して感じる子どもたちが増えた。
- (4) 今まで、近くにあった樹木の見方が変わり、樹木を大切にしようとする態度をもつ

子どもたちが増えた。

(5) 樹木札を整備するという環境整備の担い手になることで、それを授業で活用してもらえると喜びを感じたり、自分の学校を大切にしようと考えたりする子どもが増えた。

(6) 地球温暖化の原因の一つである二酸化炭素増加について、理科の授業で学習したことで、樹木を植えることとを関連付けて考え、二酸化炭素を減らす活動を進めていきたいと思う事ができた。

課題としては、次の3つが考えられる。

(1) 樹木札が活用される学習を、理科クラブの活動だけでなく、各学年の授業で取り入れていくこと。

(2) 果樹園の実が採れるようになってからも、継続して果樹園の管理を行っていくこと。

(3) 理科クラブの活動を、全校集会などで、全校児童に啓発していくこと。

5、理科クラブのこれからの方向性

附属小学校のクラブ活動の時間は年間10時間であり、十分な時間は保障されていない。活動を進めていこうと計画をしても、子どもたちの休み時間などを活用したり、理科クラブの顧問の教員が足りないところを補ったりして、何とか進めているのが現状である。この限られた時間内で、理科の興味・関心を高める活動を行っていくためには、早い段階で十分に計画しておく必要がある。

来年度の理科クラブの活動は、次のような事を行っていきたい。

- ① 樹木札の掃除と整備。
- ② 果樹園の除草，清掃，整備。
- ③ 季節によって移り変わる樹木の様子の観察。
- ④ 食べられる実の採取，調理，試食。(果樹の試食，シイの実ポップコーンなど)
- ⑤ 全校集会や様々な場で，3年間の活動と成果の発表。

これらの活動を，計画的に進めることで，充実した理科クラブ活動を進めていきたいと考える。